

くろつち便り

今月の内容

県退教宿泊学習会(5/22-23) / 野草折々68(カバミ) / Series学校現場② / 木浦さんを偲んで / (ごてれつはお休みします) **次回金曜集会は6/7日/17:30~次々回は7/10日** (別途案内)くろつち会総会・交流会6月30日



↑会報QRコード

第41回 鹿児島県退教協研修会 昔 於 大会

5月22~23日、県退教協学習会がありました。1日目はくろつち会の活動を、くろつち便り発行の取組、鹿屋の反戦活動、議会対策の3点から報告。

2日目は、社会保障制度をテーマに県労働者福祉協議会運営支援アドバイザーの片野田尚剛さんに、年金額の自動改定・計算方法について話していただきました。マクロスライドとか物価変動率、名目賃金変動率など、話を聞いた段階では分かったつもりでも、すぐに忘れてしまいそうな内容でしたが、自動改定のモデル



(夫が40年勤め、妻は専業主婦というモデル)が時代の進展にともない現状に合わなくなっているということ、マクロ経済スライドというのは、年金を抑える方式だということは分かりました。

話の後半は、労働者福祉運動についてでした。国連が、2025年は国際協同組合年にすることを宣言したということは、初めて知りました。

2枠目は石川直子さんにG I D (性同一性障害)の子の母親としての生々しい実体験談を話していただきました。

(要約)3人姉妹の末っ子まり

あ(現在名、石川宗)は現在28才ですが、生後2ヶ月ごろ胸が大きいなど、上の2人の姉とは明らかに違っていたという。本人の中では3才頃から、男・女という自覚が始まっていたのだろうか、母親も上の子たちと何かが違うという違和感を感じていたそうです。



しかもまりあは2才の頃、ある事故が元で脳の硬膜に亀裂が入り脳髄液が漏れ出すという、(女優米倉涼子と同じ)脳脊髄液減少症(低髄液圧症候群)という後遺症を煩っていたそうです。この病気にしろ先のG I Dにしろ、当時全く知られていませんでした。(次頁につづく)

3年4クラス。今年度来られた方が2人、1人は新規採用の元気な女性教員である。少々不安な中での新年度スタートだったが、今、隣のクラスは担任不在である。若い教職員の自己都合退職も増えている中、決して若い世

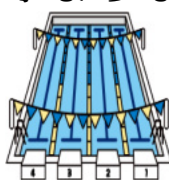
で、だいぶ疲労が蓄積してきたように感じているが、どうやら階段の昇降のせいだけではなさそうだ。



元気な3年生32人を相手に奮闘する毎日。昨年はB棟1階の入口のすぐ近くだったのが、本年度は2階まで上がらなければならぬ。たかが2階と思うかもしれないが、身体は正直

学校現場から シリーズ そのら 寿北小 関下俊郎 ② 昨年引き続き

のほもうすぐ始まる水泳学習である。64人の子供たちをより安全に水泳指導ができるのか... 指導致けるのか... しかも、3年生は今年から小プールより大プールへの引越である。昨年、背が立たない子



心配なのはもうすぐ始まる水泳学習である。64人の子供たちをより安全に水泳指導ができるのか... 指導致けるのか... しかも、3年生は今年から小プールより大プールへの引越である。昨年、背が立たない子

の消費率も徐々に上がってきた。「できません。」と断ることも考えたが、今やそういう状況ではない現場である。

も補教体制が組まれてくる。ちなみに私は2クラスの合同体育を任された。2クラス合計64人の体育はなかなかのもので、エネルギーの消費率も徐々に上がってきた。「できません。」と断ることも考えたが、今やそういう状況ではない現場である。

「これは真面目に考えてる計画ですか?今、自分たちが受け入れるだけの余裕がどこにありますか、校長。」 久しぶりにわずかに残っているエネルギーをふり絞ってヒートアップした。

「これは真面目に考えてる計画ですか?今、自分たちが受け入れるだけの余裕がどこにありますか、校長。」

そんな中、台湾交流の実施について提案があった。来校する台湾の小学生をどのように受け入れるかの提案である。しかも20数名の保護者もやってくるらしい。(担当から密かに聞いた話だが、保護者との懇親会も計画されているとか...)

そんな中、台湾交流の実施について提案があった。来校する台湾の小学生をどのように受け入れるかの提案である。しかも20数名の保護者もやってくるらしい。(担当から密かに聞いた話だが、保護者との懇親会も計画されているとか...)

代だけではいよう。1人の担任が不在ということは当然これまでも同じ授業計画では成り立たない。一応、教頭が担任として当たっているが、他の職員にも補教体制が組まれてくる。ちなみに私は2クラスの合同体育を任された。2クラス合計64人の体育はなかなかのもので、エネルギーの消費率も徐々に上がってきた。「できません。」と断ることも考えたが、今やそういう状況ではない現場である。

県退教協学習会(続き)



まりあにしてみれば、自分は男なのに学校では女児として扱われ、しかも本当に頭が痛いし横になっていたのに、ママに無理矢理学校にいかされたり、学校の先生からは、どんな検査でも異常はないしいじめもないから、怠惰だと言われる。

ようやく10才の時、TVで脳の病気のことを知り、大阪の先生のおかげで鹿児島でも検査治療することが出来るようになったという。

中学1年の夏「苦しい」と心

の内を明かされ驚いたという。石川さんはまりあも男子制服を着られるように奔走しています。他県での前例を探して学校に突きつけたり、でもなかなか学校の許可が下りなかったという。

そんな中NHK番組で杉山文野さん(フェンシング元女子日本代表)を知り、連絡を取って会うことができたそうです。

「おかあさんやパパとは違う自分と同じ人間に会えた」という言葉にショックだったという。まりあがこれまでどれ程苦しかったのか、孤独だったのか知ったわけです。

東京の某クリニックに何回か通い、「性同一性障害である」

という診断書をもって、中2から男子の制服で通学できるようになったという。

高校は近くの情報高校へ男子生徒として入学し、3年間男子生徒として過ごし卒業できたそうです。しかし卒業後雇ってくれるところも少なく大変だったそうです。

最後に石川さんは、同じGIDの子ども達を支える理解あるおとなでありたいと述べ、「どうか偏見を持たずに広く多様性の視点で考えて下さい。」と訴えて講演を終わりました。

(話を端折り過ぎて要を得なくなった点をご容赦願います。)
(樋園)

木浦さんを偲んで 内俊郎

3年位前、野間典文さんと木浦幸男さん宅を訪問しました。喜んで迎えてくださり、退職後のことを話されました。

堂園誠一さんや仲間と協力してくろつち会を発足されました。教育会館の清掃やくろつち旅行も計画されました。自らは文化部長としてくろつち便りの発行を始めました。当時は手書きで

苦労されたとの事。

くろつち旅行では奥さん同伴で黒部ダム、四国、青森など楽しまれたそうです。話は次々に出てきました。

木浦幸男さんが3月23日満92歳でなくなられました。総会や分斗長会では時間を気にせず堂々と意見をのべられ、その姿に野間さんは感動されたとの事。家庭では子供にきびしく奥様にはやさしかったそうです。

ご冥福をお祈りします。ガンバレくろつち会。木浦さん始め先輩方の気持ちをついで、会を継続し充実発展させましょう。

お悔やみ申し上げます

- 最近永眠された方々のご芳名です。
- 福留淳一様 3月3日 93歳
- 木浦幸男様 3月23日 93歳
- 久保仙三郎様 5月6日 91歳
- 謹んでご冥福をお祈り致します。



(←左) 黄色い花弁の鮮やかさと葉の緑とのコントラストを白黒印刷では表現できななくてすみません。



野草折々-68-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

カタバミ (カタバミ科)



地を這う茎は地表に広がり、駆除するのに厄介な奴だ。近頃は茎が立ち上がるオタッチカタバミもよく見かける。

2024年3月31日
(田崎学習センターの運動場)